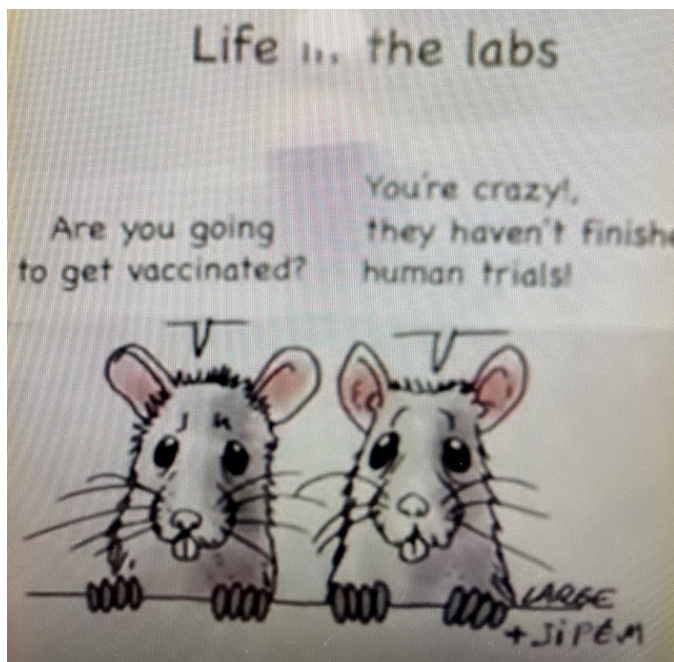


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、まことに、ありがとうございます。月間通信 3 月号をお送り致しました。何卒、よろしくお願い致します。



西洋人っていうのは、こういう洒落が好きですね。とても健全だと思います。

ども私たちは真面目過ぎて、いつも問題を正面から取り組む癖があり、解決どころか問題の深みに嵌まってしまうような気がします。江戸時代の川柳のように諧謔的に遊ぶことを忘れてしまっているのでしょうか。

私は『なんでも鑑定団』に出て来る一流と名の付く芸術家は、必ずどこかの時点で一度自分を壊している事に気づきます。決して信念を曲げている訳ではないのですが、より表現として他者に伝えようと思えば、自分に巣くっている真面目な型を打ち破る必要があると教えられているように思います。

よく、頑固と依怙地の違いについて書かれている文章を目にしますが、自分の殻に閉じ籠っているか、そのこだわりを外から眺めていられるかの違いのように思い

ます。仕事上、ひとに話しをする時に相手の側から、自分の話しを見ていられるかが、伝わるか否かの決め手になっているように思えるのです。果たしてこれが、努力によって為し得るのか、天性のものかを自分に問うと、結果は別にしても努力するしかないな、となります。

さて、冒頭のイラストはネット上に転がっていたものです。どこまでが皮肉なのかが作者の意図は難しいところですが、**Vaccine** は今話題のワクチンのことです。

Are you going to get vaccinated ?

お前は、ワクチンを打つのかい？と聞いて、相手が

You're crazy !

They haven't finished human trials !

お前は馬鹿か！

人体実験が未だ終わっていないのに！

つて、かんじでしょうか。

でも、問題はこの会話ではなく、タイトルの

Life in the labs

です。

今は羽田行の飛行機の中ですが、マスクが息苦しくて外したところ。去年は、マスク無しで乗ろうとして何度もお声がけ頂きました。まったく余計なお世話です。持っていないと言うと、マスクをくれます。どうせくれてまでマスクをしろと言われるなら、持っていると応えて素直にマスクをした方が早いので、最初からマスクをするようになりました。いつだったか小倉行の新幹線に乗っていて、出口で待ち合わせの出口社長と会うなり、『マスクは？』と聞かれ、『いるの？』と問い直すと、『い

ずれ乗せてくれなくなりますよ』と言われました。

礼を尽くす時は勿論出来る限りマスクは着用しますが、
いったい私たちが今暮らしている空間は、何処なのでしょう？

Life in the labs ?

かつて『孫子の代まで借金を残すな』と、国があたかも市中の株式会社のように借金まみれだと喧伝し、増税を叫んでいた時代が懐かしくなって来ました。米国は 200 兆円を **Virus** 対策に拠出して、最近財務大臣に就任した前 **FRB** 議長、ポーランド系ユダヤ系イエレンは『まだまだ甘い』と言っているようです。世界の中央銀行時代は無尽蔵にドル札を刷り、今は無尽蔵に国債を刷っている事になり、そして、まだまだ……と言っていると聞きます。

私たちは、何の実験に立ち会っているのでしょうか。

私たちの暮らすこの世界は、いつの間に巨大な実験室になったのでしょうか。

子供のころにプロ野球のペナントレースを 1 強 5 弱と表現していましたが、数字は別にして要は 1 強というところが味噌です。そうすると、5 弱はどのように生きれば良いのか考えてしまいます。

- 1 強に媚びを売っておこぼれを待って暮らす。
なかなか、いい方法で、この生き方は結構隠れた人気ようです。
- どうせ俺なんかと拗ねて暮らす。
続けられれば、これベストチョイスかも知れません。
- この世に正義なんてないと開き直って暮らす。
気合が必要なので、体力に自信があれば選択肢のひとつかな。
- なめんじゃねえ、と対抗して生きる。
政治力も、軍事力もなく、ましてやペンの方でなど甘えた事ではなく、対抗できる文化圏を築ければ案外遣り甲斐があるかも。

看板商品を携えてスターになろうなんて、努々考えては駄目で、私のような凡人は日々地味なことに努力を積み重ね、牧水のように、ひとつずつ山を越えていくことを選ぼうとしています。

私たちが選んだ職業は、食糧品の販売です。食糧品販売の使命は、SNS でバズル事ではなく、食べる人の身体の健康と健全な精神の育成です。意味なく付和雷同を煽る事ではなく、日々の暮らしに根付いていく人間としての価値観の提供だと考えています。

王様の領民へのメッセージは、無責任で腹が立ちますが意味正しい側面もあります。無責任というの



は、煽ってひとり権力を握って来たのはあんだらうとの批判です。もっとも政治力と軍事力が権力ですので、だから王様なのですが……王様がどんな志向をしようとする領民には関係なく、領民が政治力と軍事力を支えているのであれば、健全な暮らしを構築していく先に 5 弱の最初の生き方は減少していくことに期待を寄せているだけですが、間違っているのでしょうか？

上の画像は、夢破れた私の畑の再興です。イノシシの猛攻によって屈して放置していた石垣を組み直しました。イノシシには浜側を通るルートから入って来られないように、ブッシュを柵代わりにしています。ここで薬膳素材の栽培をしながら『薬膳の里』を作って皆さんが来てくれることを待とうと思っています。

有限会社アルファー
吉田清一郎